

QUARTERLY REPORT



MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7552
<http://www.chushiganpro.jp/>

VOL.45
2016. FEB

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を運動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者ががん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局



協育に思う

川崎医科大学 呼吸器外科学
教授 中田 昌男



平成24年度から始まった中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム(第二期中四がんプロ)もいよいよ最終年度を迎えることとなった。第一期から数えると9年の長きに及ぶ中四がんプロは、これまでに多くの成果を残してきたが、その原動力となった要因の一つは中四がんプロの掲げる「協育」にあったと考えている。協育とは、分野、職種を超えた専門職連携教育を意味している。これまで臨床においてのチーム医療は多くの施設ですでに実践されていたものの、教育とは言い、個々の職種別に行われる縦方向の自己完結的教育であったように思う。中四がんプロでは「がん」という疾患に特化した職種横断型の教育手法を展開してきた。

川崎医科大学は、学園内に川崎医療福祉大学、川崎短期大学などの複数の教育施設を有し、もともと協育を実践しやすい環境にあったが、より高度なレベルでの協育を目指すべく、第一期がんプロの時からさまざまな取り組みを行ってきた。そのひとつが、看護師をはじめとする、医師以外のメディカルスタッフを対象としたOncology Seminarである。

第1回Oncology Seminarは平成20年9月に開催した。本学の医師数名によってがんに関する総論的な講義が行われたが、中四がんプロの前代表である中田紀章教授が聴講に来て下さったことには大いに感激した。その後、Oncology Seminarは看護部が企画運営することとなり、年1~2回のペースで定期的開催されている。テーマも、「免疫力が低下した造血器腫瘍患者の看護」「分子標的治療薬の誕生でがん化学療法看護はどのように変わったか」など、より深く、かつアップデートな内容が盛り込まれ、講師も医師から看護師をはじめとする多職種へと変わってきた。毎回、当院の看護師だけではなく近隣の施設からも多数の参加をいただいております。中四がんプロの目指す協育が地域に根付いた感がある。

一方、平成23年度からは「オンコロジーナース養成研修」を開始した。これは、院内でがん看護の指導的役割を担うことのできる人材の育成を目的としたもので、中四がんプロのFD海外研修に参加した看護師を中心に

教育プログラムを作成した。研修は、腫瘍学、がん看護の総論に関する講義から、疼痛コントロールや栄養管理に関する各論、ケーススタディ、グループディスカッション、研究発表に及び、約9か月にわたって順次進行していく。講師は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、MSWなど多職種が担当する。まさに協育だ。これまでに6期までの研修が開講され、全部で21名の看護師が修了証を授与された。本研修はあくまで院内での研修に過ぎず、当院でのがん看護のレベルアップに貢献してきたが、修了者の中からがん看護専門看護師の取得を目指す者が現れ、今後のさらなる発展が期待される。また、研修プログラムが一定の軌道に乗ったことから、今後は他施設からの受講生の受け入れも検討されており、がん診療の均てん化に貢献できるものと考えている。

私たちががんプロによって得られたものは大きい。なかでも、職種や施設の枠を超えた人のつながりができたことは、これからの私たちにとって代えがたい財産となった。将来、仮にがんプロという看板がなくなっても、この間に始まった様々な取り組みは発展しながら継続していこう。中四がんプロによって蒔かれた協育の種が、今後も多くの優れたがん専門医療人を養成していくことを確信している。

動体部位を標的とした 四次元放射線治療技術の研究開発

山口大学大学院医学系研究科 放射線治療学分野
助教 椎木 健裕



近年、コンピュータの発展に伴い、放射線照射技術は目覚ましく進歩している。放射線治療は、がん治療の3本柱のひとつとして、がん診療における確固たる立場を築いてきた。また、集学的治療の一環としても、根治的治療から対症療法まで幅広くがん診療に関わり、重要な役割を担っている。

この放射線治療に携わる職種には、放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士がある。当学は放射線治療アドバンスコースを設置し、放射線腫瘍医を育成するとともに、医学物理教育の協力機関として、がんプロ養成コンソーシアムに参加してきた。このコースで養成されている医学物理士とは、我が国ではあまり耳にしない職種であるが、欧米では放射線治療・診断部門を支える職種として確立している。医学物理とは、理工学上の概念や方法論を診断・治療に役立てるための応用分野で、具体的には、放射線物理の理解の上、理工学的な側面から放射線の適切な医学利用をサポート、臨床現場のニーズに対応した新技術の研究開発などがある。数年前には、科研費の細目にも医学物理が採択され、研究分野として確立され、徐々にではあるが、社会的認識も高まりつつある。本記事では、医学物理学・放射線治療技術学の観点から、当科の取り組みと研究開発について紹介する。

呼吸性移動や蠕動運動など人間の生理運動によって動きを伴う部位に対する放射線治療は、放射線を照射する範囲拡大による副作用が増大するなどの問題がある。また、正常組織を避けながら腫瘍にそって放射線を照射することが可能である強度変調放射線治療を呼吸性移動や蠕動運動のある部位に施行すると、治療計画とは違った高線量領域や低線量領域を発生させ、腫瘍の局所制御率を低下させたり、正常組織の副作用を増加させたりする可能性もある。

これらの問題を解決するために、当院では、動体追跡装置(島津製作所製)と最新鋭の医療用直線加速器(Varian Medical Systems製)を組み合わせたシステムを世界初で導入した。動体追跡装置は、肺腫瘍付近に留

置された金属マーカの動きを、2つのX線透視画像を用いて、パターン認識画像処理により、金属マーカの三次元座標をリアルタイムに算出する。最新鋭の医療用加速器では、従来の加速器ヘッド部分には放射線の平坦度を担保するために付加されていたフラットニングフィルタと呼ばれるフィルタを外すことにより、超高線量率での放射線照射が可能となる。これらを融合したシステムを使用して、リアルタイムに算出される金属マーカの三次元座標を基に、治療計画時の金属マーカの座標と一致する時のみ放射線を超高速に照射する超高線量率呼吸同期照射を実現し、平成27年9月より、肺がんに対する動体追跡放射線治療を開始した。

この新照射技術の実現には、医学物理学の貢献は大きい。機器の研究開発を初め、安全に新照射技術を臨床導入するために、様々な独自の検証を実施し、その精度を検証した。しかし、本システムを用いた治療の精度検証法は、標準化されていない。これらを確立させるため、当学の理工学研究科および企業との共同研究開発を実施し、医学物理・放射線治療技術の観点より動体追跡放射線治療の高度化を目指している。今後、臨床現場のニーズに応える医学物理による研究開発を軸に、より高精度な放射線治療を患者へ提供できるよう貢献していきたい。

がん医療に携わる医師のための コミュニケーション技術研修会

阿南医師会中央病院 外科
医長 片山 和久



コミュニケーションと言えば、共用試験であるOSCE、あるいは徳島大学では平成18年度から6年次を対象として実施されているadvanced OSCEを思い浮かべるのではないのでしょうか？しかし医師になって実臨床の現場に臨むと、これまで試験として課されたOSCEとのギャップを感じられているのではないのでしょうか？OSCEでも模擬患者を相手にされますが、試験や評価に対応するため画一的な演技でそれほどバリエーションがあるものではありません。でも実臨床では皆さんの発言・態度によって患者は感情を表出され、時には怒りを露わにされることもあるのです。

平成24年6月に策定された「がん対策推進基本計画」に取り組むべき施策として「患者やその家族等の心情に対して充分配慮した、診断結果や病状の適切な伝え方についても検討を行う」とされています。またがん患者の自殺・自殺企図が多いことは以前より指摘されており、昨年に報告された本邦のコホート研究ではがん診断から1年以内の自殺率が一般人口の24倍とされました。その意味でも、がん告知の段階からの医師のコミュニケーション能力が問われております。

徳島大学ではこの医師のコミュニケーション能力の向上を意図して、日本緩和医療学会主催の「がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会」(以下CSTと略記)に準拠したCSTを開催しております。本年度(平成27年度)開催予定を含めて8回となります。医師として「難治がんを伝えること」から始まって、「がんの再発・転移を伝える」、「抗がん治療の中止を伝える」と病状の進行によって要求されるコミュニケーション能力は格段に高まります。医師に必須とされております「緩和ケア研修会」でも、同様なコミュニケーションを学ぶセッションが1.5単位(講義45分を含めて90分のワークショップ)設けられております。しかしながら、その重要性が指摘されるには時間数が十分とは言えず、参加医師が「がんを告知される患者」を体験するに留まっております。CSTではSHAREプロトコルに基づいたコミュニケーション・スキルの習得を目標に、講義2.5時間とともに参加者主体の実践を重視しており、2日間に渡り8時間におよぶ模擬患者を相手にしたロール

プレイを行うこととなります。SHAREとは国立がんセンター東病院の外来患者を対象とした横断調査に基づき、悪い知らせを伝えられる際の患者の意向として抽出された4つの因子で構成されます。「悪い知らせの伝え方」、「安心感と情緒的サポートの提供」、「付加的情報の提供」、「サポート的な環境設定」でその頭文字をとったものです。この医師を対象にしたスキル・トレーニングには無作為化比較試験により、参加者である医師の主観的評価だけでなく、客観的評価として、模擬面接場面での望ましい行動が増すこと、患者の抑うつが低いこと、医師に対する信頼感が高いことなどからその有効性が示されています。

徳島大学主催のCSTに是非ともご参加頂ければ幸いです。

第1回～第7回CST参加者数

	開催日時(土・日曜)	参加者数
第1回	平成20年 2月16日～17日	10名
第2回	平成22年 2月 6日～ 7日	7名
第3回	平成22年12月 4日～ 5日	6名
第4回	平成24年 1月21日～22日	4名
第5回	平成25年 1月26日～27日	5名
第6回	平成26年 1月18日～19日	2名
第7回	平成27年 1月10日～11日	5名

CSTでのロール・プレイの場面



平成27年度 第2回がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開 ～がんリハビリテーションと高度な看護実践～ 予防・回復・維持・緩和的リハビリテーションの視座に立つて

日 時:平成27年12月19日(土)13:00～17:00

場 所:岡山コンベンションセンター 3階 コンベンションホール

参加者:250名

総合司会:齊田 菜穂子(山口大学大学院)

講演会司会:藤田 佐和(高知県立大学大学院)、宮下 美香(広島大学大学院)

がん高度実践看護師WG講演会では、ケアとキュアの統合を根幹に5年間の全体テーマを「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」とし、1年単位でシリーズ化した講演会を年2回企画しています。平成27年度は「がんリハビリテーションと高度な看護実践」をテーマに、第1回講演会では2人の講師をお招きし、多くの方々にご参加いただきました。第2回講演会は、3人のがん看護専門看護師の方を講師としてお招きし、予防・回復・維持・緩和的リハビリテーションの視座に立つて、リンパ浮腫ケアや造血細胞移植、化学放射線治療を受ける患者の生活を支えるリハビリテーションについてご講演いただきました。

【講演者】

・井沢 知子 先生

京都大学医学部附属病院 がん看護専門看護師

「リンパ浮腫ケアにおけるがんリハビリテーションと高度な看護実践」

・森 文子 先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 がん看護専門看護師

「造血細胞移植におけるがんリハビリテーションと高度な看護実践」

・シュワルツ 史子 先生

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師

「化学放射線治療におけるがんリハビリテーションと高度な看護実践」

【終了報告】

第2回がん高度実践看護師WG講演会は、中四国全域から250名もの多くの方にご参加いただき、大変充実した会となりました。講演会では、がん看護専門看護師の一言一句を書き留める参加者の姿や熱心に聞き入る姿が多くみられ、がんリハビリテーションにおける高度な看護実践への関心の高さや看護職者の学ぶ姿勢を伺うことができました。

がん看護専門看護師として、がんリハビリテーションに積極的に取り組まれている3人のご講演を通して、治療に伴う有害事象の予防から治療によって生じる機能障害に至るまで、どの段階においても看護支援が求められていることが理解できました。そして、症状や機能障害を抱えながらも患者が自分らしく生きるためのサポートを行うことが看護師の役割として重要であることをリハビリテーションの視点から学ぶことができました。また、看護師は患者の生活を援助する支援者として他職種と協働しながらチームで患者を支える役割を發揮していくことが必要であること



総合司会:齊田先生の挨拶



主催者:藤田先生の挨拶



司会の藤田先生と宮下先生



会場の様子

を再認識することができました。

参加者からは、「がん看護」と聞くと疼痛緩和や化学療法の有害事象をイメージするが、がんリハビリテーションを学んだことで、「より包括的ながん看護」の必要性を感じた」「がんリハビリテーションは生活者の患者にとって“大切なこと”だと思った」「時期に応じたリハビリの介入や関わり方を踏まえ、生活とQOLの視点から社会復帰を支援することの大切さについて学べ、今後の看護実践に役立つと思った」「具体的な実践内容について聞くことができやすくて良かった」「専門分野で活躍されているがん看護専門看護師の話が聞けて良かった」など、多くの意見をいただきました。

【全体のサマリー】

井沢 知子 先生

リンパ浮腫ケアにおけるがんリハビリテーションについて、がん医療におけるリンパ浮腫の位置づけやリンパ浮腫の基本的知識、症状によるQOLの障害に関して説明されました。そして、がん患者のリンパ浮腫ケアに看護師が関わる必要性として、看護師は患者の身体・心理・社会面を包括的に捉え、一方的な知識・技術の提供ではなく、対象者の反応を見ながら支援を調整し、多職種と協働しながら患者のセルフケアを高める援助が求められていると述べられました。

周手術期にある患者のケアとして、リンパ浮腫指導管理料が診療報酬で算定でき、算定するための具体的な支援について分かりやすく説明され、実際に臨床で継続支援を行うことの重要性が再確認できました。進行・緩和期にある患者のケアとして、浮腫の原因や浮腫の評価の視点、実際の看護援助について事例を通して説明いただいたことで、臨床現場に活かせる学びを得ることができました。また、患者へのリンパ浮腫ケアを通して井沢先生自身が学びを深めてきたプロセスや取り組みの実際を紹介していただき、知識を獲得することや病期に応じたセルフケアのポイントが理解できました。看護師は、がんサバイバーのリンパ浮腫を支えるために知識や技術を提供し、患者が継続してセルフケアができるような方法を患者とともに模索することや、ピアサポート・社会資源が活用できるよう調整することの重要性を強調されました。さらに、進行がん患者のリンパ浮腫を支えるために浮腫の症状悪化を防ぎ、安楽を提供できるよう多職種チームでアプローチしdoing(浮腫のケア)だけでなく、being(傍にいたること)の関わり方の大切さについて話され、貴重なメッセージが参加者に届きました。

森 文子 先生

造血細胞移植におけるリハビリテーションについて、国内の造血細胞移植件数が増加している現状をふまえ、急性骨髄性白血病の治療経過と看護ケア、移植患者の経過と継続的支援、看護のポイント、患者のQOLに関してご講演いただきました。看護師は、患者のセルフケア支援を重視し、患者が治療プロセスを乗り越えられ、自分なりの生き方をつかめるよう伴走する姿勢を持ち、意図的に関わる重要性について説明されました。そして、退院時には、退院後の長期経過中の生活を支えられるよう、感染予防、慢性GVHD、晩期合併症のケア、心身のリハビリテーション、社会復帰の支援について、先を見据えた指導を行うことの重要性について話されました。また、移植後フォローアップ外来の取り組みを通して、治療による後遺症や合併症に対処するために対処法を患者と一緒に考えていくこと、不安や抑うつに対処するために、社会生活の中で家族とともに患者が悩んでいないか確認し、家族を含めた支援を行っていくことが患者のQOLを維持・向上させるために重要であることが述べられました。治療後、長期サバイバーとして生活している患者の支援を具体的な事例を通して説明いただき、参加者は症状コントロールの支援、生活全般に渡る困りごとや仕事の進め方、リハビリテーションへの助言など多岐におよぶ高度な看護実践について学ぶことができました。



井沢 知子 先生



森 文子 先生

シュワルツ 史子 先生

化学放射線治療におけるリハビリテーションの特徴と看護の役割、有害事象のマネジメントについてご講演いただきました。化学放射線治療を受ける患者の支援について、機能障害の予防を目的とする予防的リハビリテーションの視点で説明されました。具体的な支援としては、感染予防のための口腔ケアや廃用症候群予防のための筋力増進できるような支援があげられました。そのために、専門家と協働して取り組み、治療に伴う苦痛を可能な限り緩和しつつ、生活の中にリハビリテーションが取り入れられるよう、患者の力を十分に引き出しながら関わることの重要性について述べられました。また、治療に伴う有害事象のマネジメントにおいては、出現している症状の理解だけでなく、根拠に基づいた看護援助を提供するための測定ツールやBanduraの自己効力理論について紹介いただきました。また、患者のアセスメントや看護計画の展開について、コミュニケーションや意思決定支援の具体的な支援の方法やコツを高度な実践やアセスメントに基づいて説明いただき、参加者は治療を継続するための患者の症状緩和や身体を整えるリハビリテーションの重要性を再認識することができました。



シュワルツ 史子 先生



講演の様子



質疑応答の様子



受付の様子

【参加者アンケート結果】

参加者250名のうち169名(回答率67.6%、中国72.7%、四国24.2%、その他1.2%)から回答をいただきました。アンケートの結果、96.5%の参加者が、メインテーマ「がんリハビリテーションと高度な看護実践」について関心を持って参加されていました。56.2%の参加者が都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療連携拠点病院に所属していました。そして、89.4%の参加者が、がんリハビリテーションと高度な看護実践について具体的に理解することができ、91.7%の参加者が満足されていました。これらの結果から、がんリハビリテーションに関する参加者の関心は高く、満足度の高い講演会であったと考えます。さらに、多くの参加者が、「がん看護の専門的な学習を深める動機づけになった(89.9%)」、「がんのキャリアアップを目指す動機づけになった(80.5%)」と回答、24.9%の参加者ががん看護専門看護師の資格を取りたいと思っていることから、本講演会は高度な看護実践やがん看護への興味・関心を高め、キャリアアップへの動機づけにもなっていると考えられます。

今回の講演会で役立つと思われた内容については、「リハビリの目的・重要性・必要性に関するもの」「知識の獲得に関するもの」「看護師の役割としてリハビリに関するもの」「援助方法に関するもの」「システムに関するもの」などの11項目があげられており、参加者が、がんリハビリテーションにおける高度な看護実践を考えるうえで、個人のニーズを満たす講演会であったと考えます。今後も参加者の高度な看護実践につながるような講演会を開催していきたいと考えております。

平成28年度は「在宅がん医療と高度な看護実践」をテーマとして、7月10日(日)と12月17日(土)に開催を予定しております。また、平成28年度も、年2回の講演会に参加して頂いた方に参加証明書を発行いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

文責：高知県立大学大学院看護学研究科 藤田 佐和

活動報告

岡山 第7回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成27年7月7日(火) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
 参加者:11名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術7(放射線の線質と管理)」
 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第7回目としてChapter7を中心に、半価層と濾過、放射線線質の決定法、エネルギースペクトル測定などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第2回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース地域連携セミナー(大学院公開講座)

日時:平成27年7月18日(土) 13:00~18:20
 場所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟3F 301室
 参加者:11名

司会 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

講師 広島大学大学院医歯薬保健学院応用生命科学部門
 (放射線腫瘍学) 西尾 禎治 先生

「放射線治療線量計算2」
 「陽子線治療1」
 「陽子線治療2」
 質疑応答

終了報告

本セミナーは、本年第1回地域連携セミナー(大学院公開講座)に引き続き、毎年開講している大学院保健学研究科「放射線治療管理学特論」の一部を公開形式としてジョイント開催された。広島県からの参加があったが、粒子線治療は中国四国地区の臨床現場ではまだ1施設も導入されていない。しかし、現在導入計画があるため今後関心が集まるものと期待される。講義では基礎から応用まで幅広く、有意義な内容であり、医学物理士試験の対策にも有用である。次回はさらに多数の参加者が集うように周知させていきたい。



岡山 第8回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成27年7月21日(火) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
 参加者:7名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術8(吸収線量の計測と評価)①」
 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第8回目としてChapter8を中心に、吸収線量、計測量の定義、吸収線量の計算、計測理論などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

山口 第3回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:コミュニケーションスキル

日時:平成27年7月23日(木) 18:00~19:00
 場所:山口大学医学部霜仁会館 3階 多目的室
 参加者:19名

司会 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 吉野 茂文 先生

「がん患者とのコミュニケーションスキル」
 山口大学 大学教育機構 保健管理センター 松原 敏郎 先生

終了報告

この度、山口大学大学教育機構保健管理センターの松原敏郎先生による「コミュニケーションスキル」セミナーを開催した。

講演では、「がん患者の心理特性」と「がん患者とのコミュニケーション」の大きく2つのテーマに分けてお話された。

まず、心理特性を知ること、患者さんから何か問いかけがあったときに対応しやすくなると述べられた後、「がん患者の心理特性」について、がん患者の心理の揺れ動きや、心理的不安・苦痛などを説明された。

次に、「がん患者とのコミュニケーション」について、話を聴く際の基本的なスタイルや相手のところを推し量るには共感が大切であることを説明された。コミュニケーションは言語的なものばかりではなく、視線やうなづきなど非言語的コミュニケーションもあり、患者さんからの問いかけに対して、必ずしも言語的なコミュニケーションをとる必要はなく、目を見てゆっくりとうなづきことでも「あなたの話を聞いていますよ」というメッセージになると述べられた。

最後に、本セミナーで覚えて帰って欲しいこととして、がん患者は絶え間ないストレスにさらされており、その「つらさ」を取り除くために緩和ケアは治療の初期から受けることができ、がん患者の生活の質を上げるものであると述べられ、講演会を締めくくられた。



岡山 第9回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成27年7月28日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:6名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術8(吸収線量の計測と評価)②」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第9回目として第8回目で行ったChapter8の続きを中心に、線量測定プロトコル、線量計の種類などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島 Oncology Nutrition Seminar

日 時:平成27年7月31日(金) 16:30~18:00
場 所:徳島大学蔵本キャンパス 医学部 基礎第一講義室
参加者:69名

「Nutritional Care for Cancer Patients in Hospice」
米国 Woodland Hospice, Registered Dietitian,
Chieko Marshall 先生



終了報告

ホスピスなどの緩和医療におけるがん患者の栄養アセスメントと栄養管理について、米国の現状をご講演いただいた。米国では、Nutrition Care Processという栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングのシステムが構築されており、緩和医療における栄養管理にも活用されていること、緩和医療では食べたいときに食べたいものを提供できるシステムが構築されていることを紹介していただいた。米国の進んだ栄養管理を知る貴重な機会となった。

参加者からは「米国でRegistered Dietitianとして働くことの大変さや生き甲斐を知ることができた」、「日本と米国での栄養管理の考え方自体には、大きな違いがないこともわかった」などの感想が聞かれ、好評であった。

徳島 臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ)第8回 地域医療セミナー

テーマ:鳴門と板野とのがん診療連携~患者さんの安心のために~

日 時:平成27年7月30日(木) 19:00~20:40
場 所:徳島県鳴門病院 3階 大会議室
参加者:58名



総合司会 徳島大学病院 がん診療連携センター
がん診療連携・相談副部門長 福森 知治 先生
開会挨拶 徳島大学病院 がん診療連携センター
がん診療連携・相談部門長 金山 博臣 先生
板野郡医師会 会長 有住 基彦 先生
ご挨拶 「徳島大学病院 がん診療連携センターについて」
徳島大学病院 がん診療連携センター
センター長 埴淵 昌毅 先生

第1部

座長 徳島大学病院 呼吸器・膠原病内科 准教授 埴淵 昌毅 先生
肺がん 「当科における肺癌治療の現状」
徳島大学病院 呼吸器外科 助教 鳥羽 博明 先生
乳がん 「乳がんの最新治療と県下統一バスによる病診連携」
徳島大学病院 食道・乳腺甲状腺外科 教授 丹黒 章 先生
胃がん 「胃がんに対する最新の低侵襲外科治療」
徳島大学病院 消化器・移植外科 助教 吉川 幸造 先生
大腸がん 「大腸癌の最新化学療法」
徳島大学病院 消化器内科 講師 宮本 弘志 先生

第2部

座長 徳島大学病院 泌尿器科 教授 金山 博臣 先生
前立腺がん 「前立腺がんの最新治療」
徳島大学病院 泌尿器科 講師 福森 知治 先生
がん診療連携について
「当院のバスを使った連携の現状について」
徳島大学病院 医療支援課 福田 直也 MSW
「書類手続きについて」
徳島大学病院 医療支援課患者支援係 小林 保数 係長
徳島県鳴門病院におけるがん診療
「子宮頸がん検診におけるHPV検査併用の意義について」
徳島県鳴門病院 産婦人科 部長 漆川 敬治 先生



閉会挨拶 鳴門市医師会 会長 福田 徹夫 先生

終了報告

今回のセミナーは、徳島大学病院主催、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム、徳島県鳴門病院、鳴門市医師会、板野郡医師会の共催のもと、徳島大学病院と鳴門・板野地域のがん診療連携をさらに発展させるために開催された。今回は、「当科における肺癌治療の現状」「乳がんの最新治療と県下統一バスによる病診連携」「胃がんに対する最新の低侵襲外科治療」「大腸癌の最新化学療法」「前立腺がんの最新治療」「当院のバスを使った連携の現状について」「書類手続きについて」「子宮頸がん検診におけるHPV検査併用の意義について」の8演題について講演があり、各種がんの診療連携が深められた。徳島大学病院と、鳴門・板野地域の医師、看護師など医療従事者が参加し、がんの地域連携が深められた。

徳島

がん栄養セミナー

日時:平成27年8月1日 13:10~18:05
 場所:徳島大学蔵本キャンパス 第二臨床講堂
 参加者:112名

講演1 「米国のがん緩和医療における栄養管理」
 米国Woodland Hospice, Registered Dietitian,
 Chieko Marshall 先生

講演2 「食道がんの診断と治療」
 徳島大学大学院 胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授
 丹黒 章 先生

講演3 「症例を基にしたがん化学療法・放射線療法の栄養管理」
 静岡県立静岡がんセンター病院栄養室長
 稲野 利美 先生

講演4 「がんと栄養」
 公立学校共済組合四国中央病院
 臨床研究センター長 中屋 豊 先生



終了報告

本セミナーでは、4名の演者の先生方にご講演いただきました。緩和ケアにおける栄養管理では全人的な対応が必要であり、そのためには多職種による連携が必要であることを参加者にご理解いただけたと思う。

参加者からも「米国の緩和ケアで活躍されている栄養士の話が聞けて良かった」、「チームで協働していくことの重要性を学んだ」、「幅広くがん患者の栄養管理を学ぶことができた」など満足度の高い評価をいただきました。

岡山

第10回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成27年8月5日(水) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
 参加者:6名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術9(散乱分布の特性と考慮)」
 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第10回目としてChapter9を中心に、ファントム、深部線量分布、PDD、TAR、SARの定義などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

香川

第15回 緩和医療に関する集中セミナーin香川

日時:平成27年8月8日(土) 9:30~16:30
 場所:高松国際ホテル 瀬戸の間
 参加者:85名

「がん治療医も困っています
 -疼痛治療から抗がん剤の「止め時」まで-」
 東北労災病院 腫瘍内科 部長 丹田 滋
 「緩和ケア病棟の医療者の役割・連携
 -国立がん研究センター東病院緩和ケア病棟での取り組み-」
 国立がん研究センター東病院 緩和医療科 田上 恵太
 「膵臓癌の治療」
 香川大学医学部附属病院 消化器外科 須藤 広誠
 「がん化学療法 A to Z」
 香川大学医学部 臨床腫瘍学講座 教授 辻 晃仁

終了報告

がん治療に携わる様々な医師から、緩和ケア病棟の取り組みから最新の膵臓癌治療まで、多様な講演をしていただきました。



徳島

Cancer Meeting in Tokushima 2015 [International Symposium]

日時:平成27年8月16日(日) 13:30~15:00
 場所:ホテルクレメント徳島
 参加者:37名

総司会:丹黒 章 先生
 徳島大学大学院医歯薬学研究部
 胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授

1. 「Colon Cancer Chemoprevention: A Japanese-US approach」
 Basil Rigas, Vice President, Stony Brook University
 司会:高山 哲治 先生 徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学 教授

2. 「Epidemiology of gastrointestinal tract cancer in Japan」
 Hideo Tanaka, Division of Epidemiology and Prevention,
 Aichi Cancer Center Research Institute
 司会:松岡 順治 先生 岡山大学大学院保健学研究科 教授

閉会挨拶:高山 哲治 先生
 徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学 教授

終了報告

今回のInternational Symposiumでは、2名の先生に英語でご講演いただきました。初めに、アメリカのStony Brook UniversityのRigas先生に大腸がんの予防に関する最新の知見をご講演いただきました。とくに、アメリカにおけるケモプリベンションの最近の趨勢、新しい薬剤について日本の予防研究と比較して分かりやすく講演されました。また、日本では内視鏡を用いた大腸の微小病変(Aberrant crypt foci; ACFなど)の観察がすぐれているため、それらを共同研究することが提案された。次に、愛知がんセンターの田中英夫先生に消化器がんの疫学についてご講演いただきました。食道がん、胃がん、大腸がんなどのリスクファクターについて、諸外国や本邦における最新のデータをご紹介いただきました。質疑応答では、化学予防薬の作用機序、今後の計画に関することが質問された。また、ヘリコバクター・ピロリや種々の遺伝子型のリスクファクターになりうる機序に関することが多数質問された。質問に対する回答、続く討論も大変有意義なものであった。



岡山 第11回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成27年8月19日(水) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
参加者:5名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術10(線量計算システムの実際)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第11回目としてChapter10を中心に、線量計算パラメータ、MU計算の応用、深部線量計算の実用的な方法などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

高知 第5回 インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)集中セミナー

テーマ:がん在宅移行期・終末期における地域の抱える問題点

日 時:平成27年8月30日(日) 13:00~16:30
場 所:高知会館 2階 白鳳の間
参加者:49名

総司会
高知大学医学部附属病院 がん治療センター 部長 小林 道也

総合コーディネーター
高知大学医学部医療学(公衆衛生学) 講師 宮野 伊知郎

- 開会挨拶
- ワークショップ説明・アイスブレイク
- 多職種によるワークショップ:2症例(ワールド・カフェ方式)
症例提示・ディスカッション・シェア
- まとめ
- 閉会挨拶・アンケート回収

終了報告

今回のセミナーは、東部会場で開催した第4回と同じく、自身が経験した“後悔の残る事例や困難さを感じた事例”についての症例での多職種によるワークショップをワールドカフェ方式で行いました。参加者からは、「現在終末期の利用者を担当させて頂き、支援していく上での参考にさせていただきます。ありがとうございました。」や「多職種の連携や家族との信頼関係が必要だと再認識しました。」などの感想がありました。



岡山 第12回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成27年9月2日(水) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
参加者:8名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術11(線量分布作成の実際)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第12回目としてChapter11を中心に、等線量曲線、等線量曲線の測定、等線量曲線のパラメータ、ウェッジフィルタ、照射野の組み合わせ、SAD法、ウェッジ照射、ICRUの定義などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第3回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース地域連携セミナー

日 時:平成27年9月4日(金) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟6F 第7カンファレンスルーム
参加者:13名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 大野 誠一郎

「MRIの最新情報(最新の高速撮像法及び放射線治療への対応など)」
シーメンス・ジャパン株式会社 MRビジネスマネージメント部 境 龍二

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、MRIの最新情報(最新の高速撮像法及び放射線治療への対応など)と題し、シーメンスジャパンの境龍二先生より講義して頂きました。セミナー講義では、最新のMRI撮像技術として注目されている心臓MRイメージングおよび圧縮センシング技術を中心に、臨床応用事例を講義して頂き、それらの有用性ととも将来展望についても解説がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、専門資格の取得に向けて大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢が見られました。

岡山 第13回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成27年9月16日(水) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:6名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術12(線量分布修飾の実際)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第13回目としてChapter12を中心に、患者データの取得、治療シミュレーション、治療照合、輪郭不整形の補正、組織欠損の補正、患者位置決めなどについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島 PHITS講習会

日 時:平成27年9月19日(土) 10:30~17:30
平成27年9月20日(日) 9:30~15:00
場 所:徳島大学蔵本キャンパス
医学部基礎B棟1階 基礎第一講義室
参加者:29名

講師 橋本 慎太郎 先生、古田 琢哉 先生
(日本原子力研究開発機構)

講習会プログラム
平成27年9月19日(土)
PHITSのインストール
PHITSの概要説明
基礎実習1-1(体系の作成方法)
基礎実習1-2(線源の設定方法)
基礎実習2(タリーの設定方法)

平成27年9月20日(日)
基礎実習3-1(輸送計算に関する設定)
基礎実習3-2(物理モデルの設定)
治療応用実習(CTデータを利用したシミュレーション)
まとめと質疑応答

終了報告

放射線の相互作用をモンテカルロシミュレーションを利用して理解する良い機会となり、大変有意義であった。参加者からも、「モンテカルロシミュレーションを利用して放射線の相互作用の理解を深めることが出来た」「今後の放射線を用いた診断や治療技術に役立てたい」などの感想が聞かれた。



岡山 第1回 岡山大学がん放射線科学コースFDセミナー 岡山大学医学物理士インテンシブコース

日 時:平成27年9月26日(土) 14:00~18:00
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟3F 301室
参加者:29名

第1部:シンポジウム 司会:笈田 将皇(岡山大学大学院)

シンポジウム①

「中四国地区の中核放射線治療施設・教育機関における現況と課題」

1. 中核放射線治療施設

演者:青山 英樹(岡山大学病院)、長瀬 尚巳(川崎医科大学附属病院)、
田辺 悦章(山口大学病院)、小野 康之(鳥取大学医学部附属病院)、
西村 友則(島根大学医学部附属病院)、佐々木 幹治(徳島大学病院)、
本田 弘文(愛媛大学医学部附属病院)、續木 将人(香川大学医学部附属病院)、
横田 典和(高知大学医学部附属病院)

2. 教育機関

演者:笈田 将皇(岡山大学大学院)、富永 正英(徳島大学大学院)、
椎木 健裕(山口大学大学院)、齋藤 明登(広島大学病院)

シンポジウム②

「国立病院機構(地域拠点がんセンター)における放射線治療の現況と課題」

演者:島 勝美(独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター)
大浦 弘樹(独立行政法人国立病院機構 九州医療センター)
古志 和信(独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター)
武中 正(独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター)

全体討論

第2部:教育講演 座長:青山 英樹(岡山大学病院)

教育講演①

「True Beamの立ち上げについて」

大浦 弘樹(独立行政法人国立病院機構 九州医療センター)

教育講演②

「小線源治療における安全管理」

武中 正(独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター)

終了報告

本セミナーでは、中国四国地区大学病院および各ブロック国立病院機構、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、放射線治療状況と地域連携に向けての討論会および講演会を企画した。シンポジウムでは、各地域の放射線治療の現状を確認し、地域間、大学間での今後の放射線治療体制整備および人材育成の解決に向けて積極的に議論を交わした。また教育講演では臨床向けのテーマとしてTrue Beamの立ち上げに関する内容を九州医療センターの大浦先生に、小線源治療の安全管理について姫路医療センターの武中先生に講演して頂いた。各講演は短い時間だったが、非常に有意義な議論と講演会となり盛況に終わった。

岡山

第4回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース 地域連携セミナー(大学院公開講座)

日 時:平成27年9月26日(土) 9:30~12:30
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟3F 301室
参加者:19名

司会 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療計測技術学1」

徳島大学大学院保健科学教育部 富永 正英 先生

「放射線治療計測技術学2」

山口大学大学院医学系研究科 椎木 健裕 先生

「放射線治療計測技術学3」

広島大学病院放射線治療科 齋藤 明登 先生



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、放射線治療計測技術学と題し、徳島大学の富永先生、山口大学の椎木先生、広島大学の齋藤先生よりそれぞれ講義して頂いた。セミナー講義では、放射線計測の基本技術や臨床での評価技術からアカデミックな開発技術まで幅広い内容で講義して頂き、それらの有用性ととも将来展望についても解説がなされた。大学院相当の内容にもかかわらず、専門資格の取得に向けて大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢が見られた。

高知

がんプロ研修報告会

日 時:平成27年10月14日(水) 18:00~19:00
場 所:高知大学医学部低侵襲手術教育・トレーニングセンター
参加者:12名

司会:高知大学医学部がん治療センター
部長 小林 道也

報告1

医学物理士FD研修報告:トロント大学
高知大学医学部附属病院 放射線部 明間 陵

報告2

中四国放射線治療夏季セミナー研修報告
高知大学医学部附属病院 放射線科 西森 美貴



終了報告

医学物理士FD研修、放射線治療セミナーの研修報告会を開催しました。FD研修の報告では、北米での放射線治療の実際と日本の違いについて説明がありました。放射線治療セミナーでは、教育講演や症例報告のほかシンポジウムでは放射線治療医の魅力や専門医制度について講演があり、非常に有意義な研修であったとの報告がありました。

岡山

市民公開講座

テーマ:~きっと役立つがんの最新情報~がんの最新治療

日 時:平成28年1月16日(土) 13:00~16:05
場 所:岡山大学 Junko Fukutake Hall
参加者:316名



「肺がん治療の新展開」

岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科 教授 木浦 勝行

「乳がんの予防と検診」

岡山大学病院 乳腺・内分泌外科 助教 岩本 高行

「C型肝炎は飲み薬で治ります」

岡山大学病院 消化器内科 助教 池田 房雄

「新しいがん治療 陽子線治療」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 陽子線治療学 准教授 勝井 邦彰

終了報告

岡山大学Junko Fukutake Hallにて中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム主催の市民公開講座「~きっと役立つがんの最新情報~がんの最新治療」が行われた。

講演1として「肺がん治療の新展開」と題して木浦勝行先生に肺がんの最新治療について講演いただいた。肺がん患者が高齢化しているものの、新たな薬剤が登場し生存期間が延長していること、将来的には治癒を目指していることを熱く語られ、聴講者は熱心に聞き入っておられた。

続いて講演2として「乳がんの予防と検診」と題して岩本高行先生に講演いただいた。乳がんと喫煙について特に詳細なデータを提示してわかりやすくお話しいただいた。聴講されていた方々の半数は男性であったが、男性からも質問があるなど、ご自身の事はもちろん、親族や友人、知人のためにも医学情報を聞きに来られているのだと感じられた。

講演3として「C型肝炎は飲み薬で治ります」と題して池田房雄先生より肝臓がんに関するC型肝炎の最新治療について講演いただいた。肝臓がんは慢性肝炎が背景にあることがほとんどであり、C型肝炎は肝臓がんの大きなリスクであることは以前から知られている。一方でC型肝炎の治療はインターフェロンという副作用の強い薬剤を使用する必要があり、また完全に消える可能性も高くなかった。近年インターフェロンよりも副作用の弱い飲み薬で高い治療効果がある薬剤が使用できるようになった事について丁寧に講演いただいた。またC型肝炎の治療には医療費助成ができることが多く、その点についてもお話しいただいた。

最後に講演4として「新しいがん治療 陽子線治療」と題して勝井邦彰先生に講演いただいた。陽子線治療についてわかりやすくご説明され、また津山中央病院で運用開始予定のがん陽子線治療センターをご紹介いただいた。西日本にも数カ所陽子線治療ができる施設はあるものの総合病院内にできるのは西日本初であること、陽子線治療単独施設よりも他科と連携しながら治療ができる強みを強調されていた。質疑応答では他施設で放射線治療は困難と言われたが、陽子線で治療できないかといった具体的な質問があり、注目の高さがうかがわれた。

当日は穏やかな天候に恵まれ300名を超える市民の参加があり、積極的に質疑応答に参加されるなど最新の医療情報を自ら学ぼうという参加者の意欲を感じた。

参加者アンケート結果

参加者316名のうち、250名から回答をいただいた。(回答率79%)

岡山市内からの参加者が多く68%、次いで倉敷市、その他岡山県内の市町村からそれぞれ16%、県外からの参加が1%だった。参加者が興味を持った講演は「新しいがん治療 陽子線治療」が33%、「肺がん治療の新展開」が27%、「C型肝炎は飲み薬で治ります」が21%、「乳がんの予防と検診」が19%(複数回答可)と、どの講演に対しても関心の高さがうかがえた。講演内容について、44%がわかりやすい、39%がまあまあと回答いただいており概ね好評だったが、アンケートでは一部「専門用語がわかりづらかった」、「講演、質疑の時間が短かった」などの意見もあった。また、92%がこうした講演は必要性があると回答いただいており、市民公開講座への参加意欲の高さが感じられた。

参加大学

Consortium Member



川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012



岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢看護とコース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984



広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬学総合研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538



香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074



山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
高度実践看護師(がん看護)コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058



徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111



愛媛大学
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868



徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科系コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科系コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009



高知県立大学
University of Kochi

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580



高知大学
Kochi University

臨床腫瘍内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.45

□ 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所
有限会社 ファーストプラン